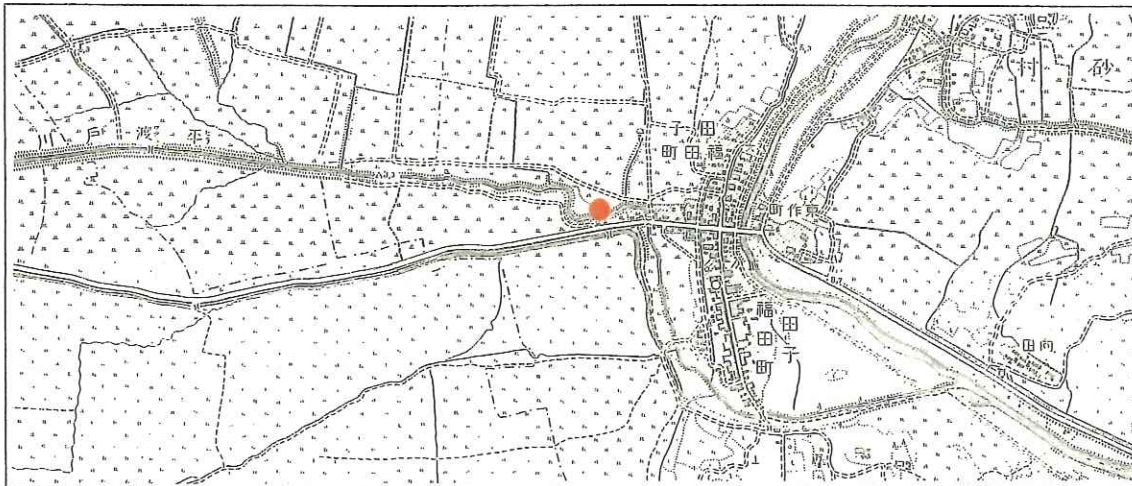


# 福住町のむかし、いま

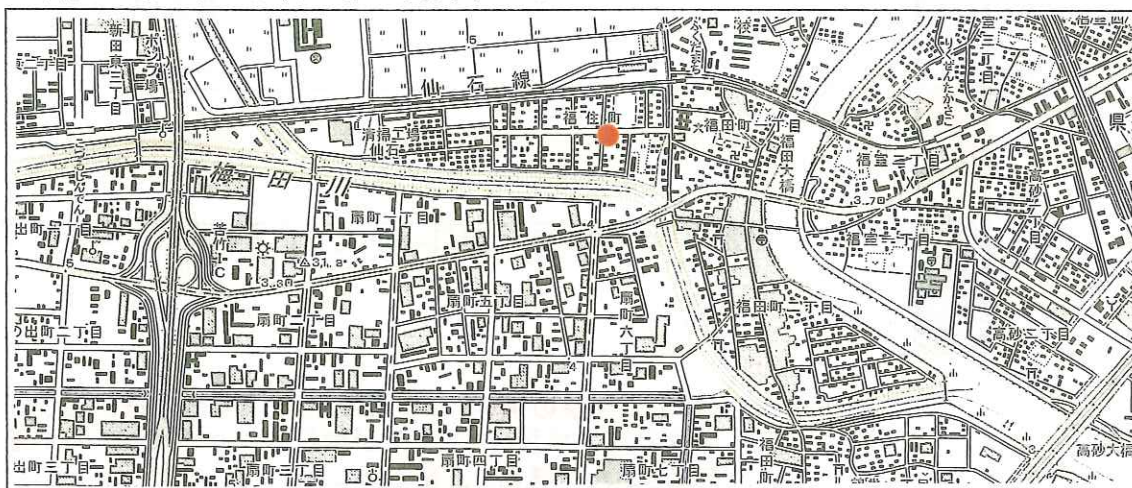
2014.11.09

100年前と今の地形図を見比べてください。

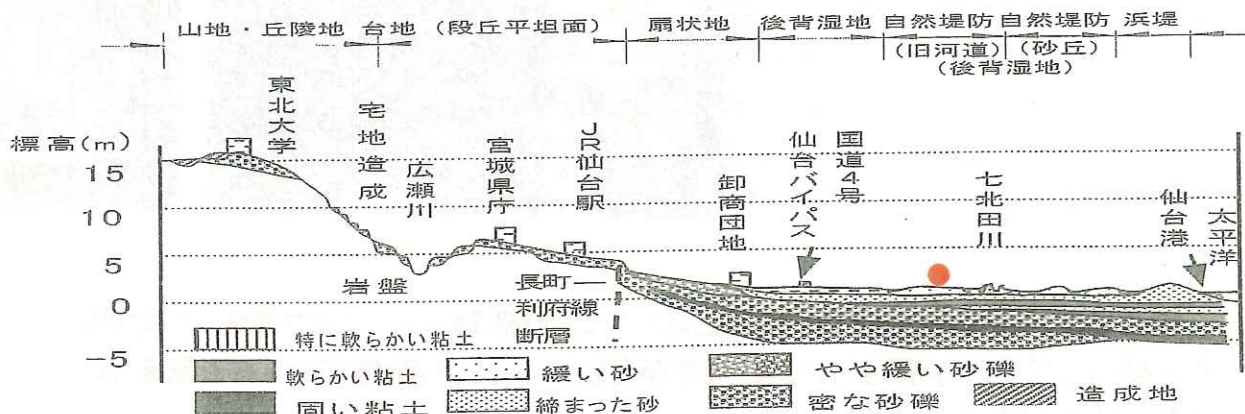
明治38年ごろ(1905年ごろ)の地形図 1/25000



平成20年(2008年)ごろの地形図 1/25000



昔は、周りを見渡す限りの水田で、遠くには泉ヶ岳が山すそから見えていたか  
もしれません。いまの梅田川(平渡戸川)は曲りの多い川で、川の近くだけがや  
や高みの土地のようでした。集落は七北田川に沿っての少し高いところに集中  
していたようです。おそらく、七北田川との合流点にも近いので、洪水も頻繁に  
あったかもしれません。



仙台地域の地震動、地震災害と地盤

## 川のまわりの細かな地形(微地形)からみえること

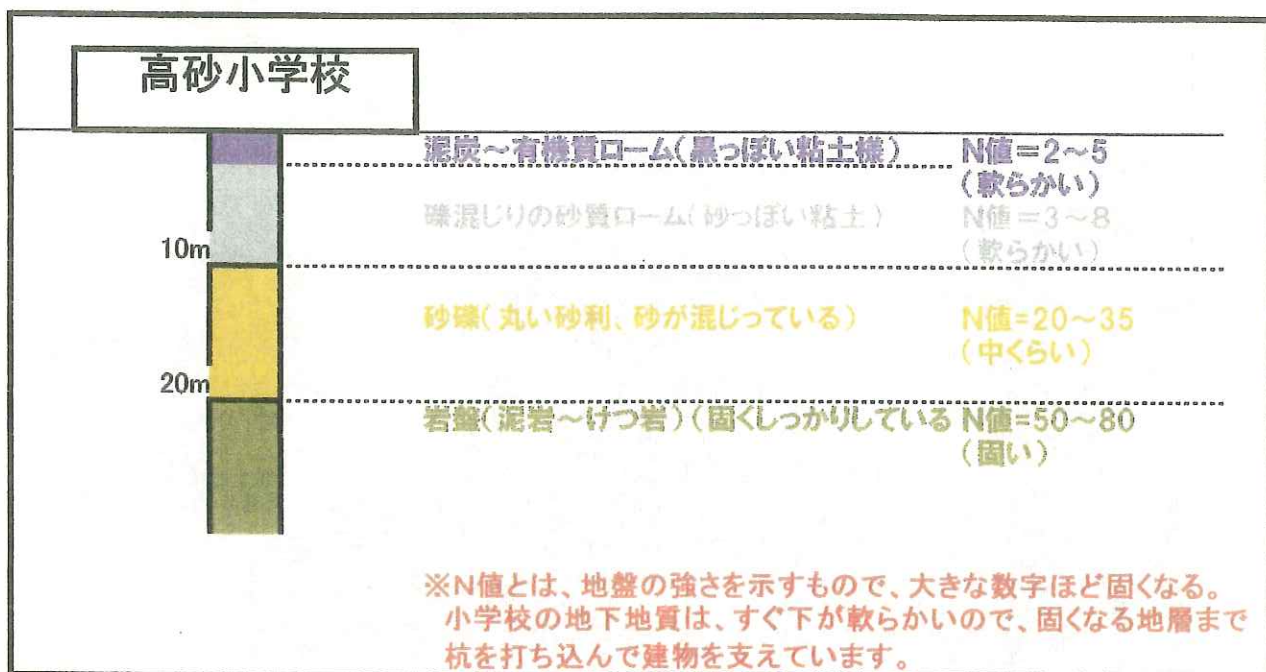
河川の周囲には自然堤防、後背湿地、氾濫原、沼地、旧河川といった地形があります。

自然堤防は川が上流から運搬してきた土砂が氾濫で、堆積してできます。しかし、本流から離れると運搬力が弱まって、川の近くに発達します。やや高くなる(微高地)のために古くから集落が発達しました。自然堤防の反対側は、後背湿地となって、水害の際には湛水淡水しやすく、水の引きも遅くなります。

また、洪水のたびに流路を変えるために、三日月湖とか旧河道などができて低湿地となります。このような氾濫原は、低湿地が多く、稲作には水利面では好都合ですが、度々の洪水で浸水するために居住できません。自然堤防のような高みは人間、低湿地は水田とすみ分けてきました。

## 地下の地質について

ボーリング調査などによると、この辺一帯は、地下水位の高い軟弱地盤になっています。大まかには、上部から湿地性の泥炭層、河川で運ばれた中粒～粗粒の砂層、貝殻の混じる粘土～砂層、段丘または扇状地と考えられる砂礫層があります。この砂礫層まではおおむね、地表から10m程度です。



## 最近の地盤では？

### 元サニーハイツ高砂〈高層住宅〉

78 宮城県沖地震で、玄関周りの非構造壁が破壊して、玄関のドアの開閉が不能、外階段が破損しました。

2011 東日本大震災では、南棟が1/45まで傾斜して全壊の判定を受けました。建物も最大で31cmも沈下しました。地震動での地盤、建物、基礎杭の不整合が原因と考えられます。



**地形は長い時間をかけて作られてきたもので、自然史のアーカイブです。それが素因となって、震災や水害などの自然災害が発生することがあります。災害で教えられる前に足元を知っておきましょう！**

